

問い合わせ先
第八管区海上保安本部
広報地域連携室
奥野 哲也・今出 高廣
電話 0773-76-4100 (内線 2111・2117)



平成28年5月25日
第八管区海上保安本部

官民合同による旅客船事故対応訓練を

舞鶴地区で初の実施！

～ 各関係機関の救助勢力による一連の救助訓練を行い
更なる連携強化を目指します～

第八管区海上保安本部では、旅客船事業者及び関係機関・団体と連携し、下記のとおりフェリー「あかしあ」を使用して『旅客船事故対応合同訓練』を実施します。

この訓練は、舞鶴沖を航行中の船内で火災が発生し、多数の負傷者が発生した場合を想定し、各救助勢力が連携した一連の訓練を、官民一体となって実施するものです。

今回のように、多数の関係機関・団体が連携して対処する大型旅客船の救助訓練は、舞鶴地区では初の実施となります。

1 訓練実施日時・場所

平成28年6月13日(月)午後1時20分～4時10分
舞鶴東港前島埠頭岸壁(訓練実施場所図参照)

2 参加機関

○参加機関(10機関 208名)

第八管区海上保安本部(主催)

近畿運輸局京都運輸支局、京都府、舞鶴市、舞鶴市消防本部、舞鶴警察署、

DMA T、(独)国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校

京都府水難救済会舞鶴救難所

新日本海フェリー株式会社

○参加勢力(船艇4隻 航空機1機等)

フェリーあかしあ

巡視船おき(境保安部)、巡視艇あおい(舞鶴保安部)

ヘリコプター1機（舞鶴保安部）
機動救難士3名（美保航空基地）、潜水士9名（おき6名、えちぜん3名）
警備艇ゆら1隻（舞鶴警察署）、水救会所属船1隻
消防（指揮隊1隊、消防隊1隊、救急隊2隊、救助隊1隊）
DMAT（5チーム） 等

3 訓練想定

舞鶴市沖の冠島南方付近海域において、旅客船A号（総トン数 17,000トン）の船内で火災が発生した。乗組員による初期消火に成功するも、火災により熱傷を負った者や居住区画から発生した煙を吸うなどして体調不良等を訴える乗員・乗客が多数発生している。

4 訓練項目

- (1) 想定旅客船による初動対応（事故通報、避難誘導等）
- (2) 関係機関における情報伝達、対策本部設置
- (3) 沖合での現場統制、船内搜索、搬送トリアージ、重傷者搬送
（※ 実際は着岸中の船舶を沖合で航行中と見立てて訓練を行います。）
- (4) 着岸後の負傷者搬送、救護所での応急処置、医療機関搬送

5 その他

取材を希望される社は、平成28年6月8日（水）午後4時までに総務課広報・地域連携室まで、ご連絡いただきますようお願いいたします。



旅客船事故対応合同訓練

平成28年6月13日(月)1320~1610

参加機関(10機関 208名)

第八管区海上保安本部(主催)

近畿運輸局京都運輸支局、京都府、舞鶴市、舞鶴市消防本部、舞鶴警察署、

DMAT、(独)国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校

京都府水難救済会舞鶴救難所

新日本海フェリー株式会社

参加勢力(船艇4隻 航空機1機等)

フェリーあかしあ

巡視船おき(境保安部)、巡視艇あおい(舞鶴保安部)

ヘリコプター1機(舞鶴保安部)

機動救難士3名(美保航空基地)、潜水士9名(おき6名、えちぜん3名)

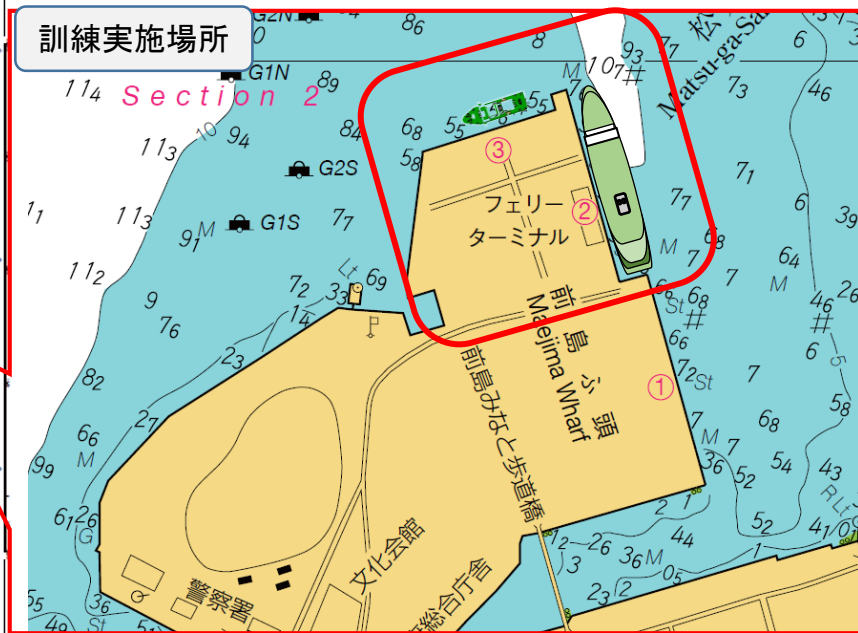
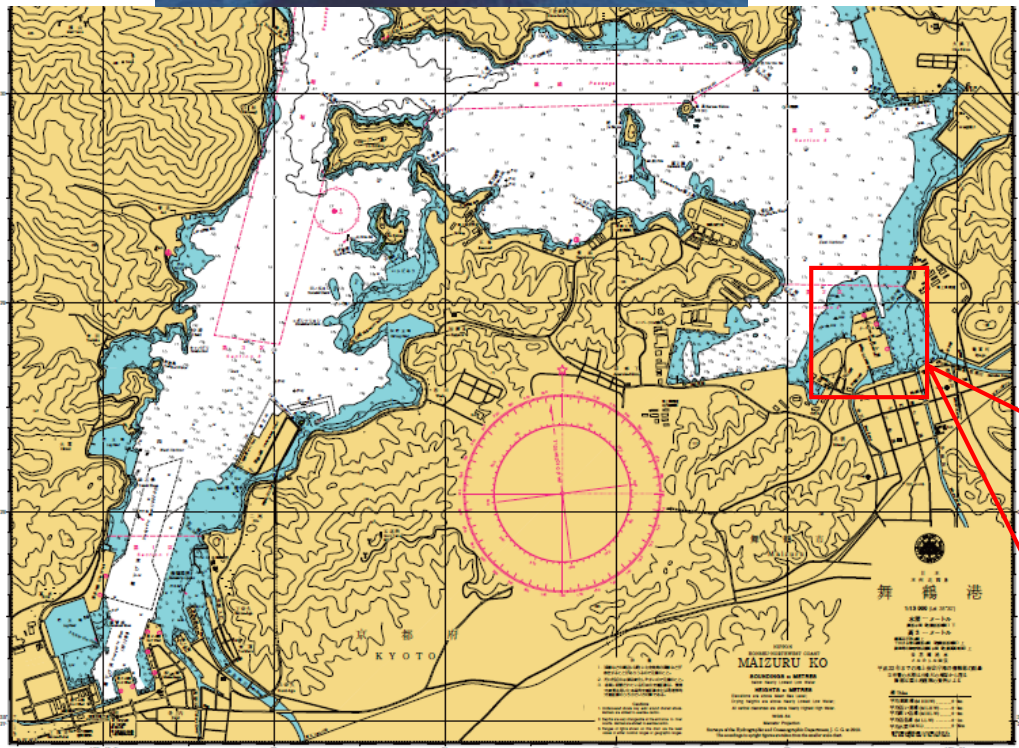
警備艇ゆら1隻(舞鶴警察署)、水救会所属船1隻

消防(指揮隊1隊、消防隊1隊、救急隊2隊、救助隊1隊)

DMAT(5チーム) 等

実施場所

舞鶴港前島ふ頭2、3号岸壁及びフェリーターミナル



目的

最近の大型旅客船事故の発生状況を踏まえ、実践的な想定訓練を実施することにより、官民関係機関の役割の再認識及び連携態勢の強化を図り、事案発生時の適切な対応能力の向上に資することを目的とする。

訓練項目

- (1) 想定旅客船による初動対応(事故通報、避難誘導等)
- (2) 関係機関における情報伝達、対策本部設置
- (3) 沖合での現場統制、搬送トリアージ、要救助者搬送
- (4) 着岸後の要救助者搬送、救護所での応急処置、医療機関搬送

想 定

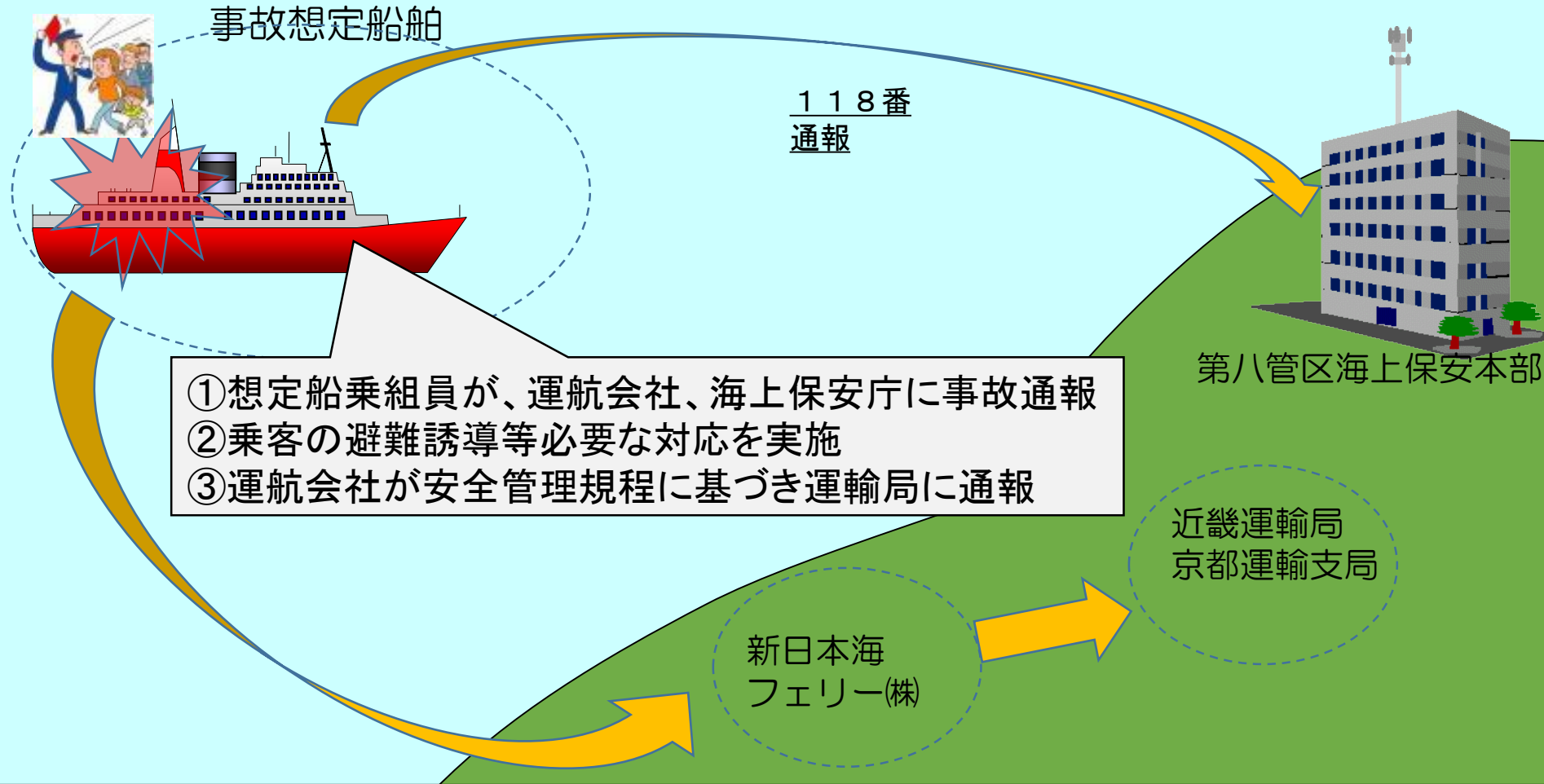
1 平成28年6月13日、舞鶴東港を出港後、午前11時頃、舞鶴市沖合いの冠島南方付近海域において、旅客船A号(総トン数17,000トン)の居住区画で火災が発生。

乗員による初期消火に成功するも、初期消火活動時に炎により熱傷を負った者や、同区画から発生した煙を吸うなどして容態悪化を訴える乗員乗客が多数発生し、現在、同船舶は漂泊状態。

2 後刻、旅客船A号は安全が確認されたため航走を再開し、舞鶴東港前島ふ頭フェリー岸壁に着岸。

船内には、煙を吸うなどして容態悪化を訴える乗員乗客が多数発生。

ステージ1【事故発生、想定船乗組員による初動:通報、避難誘導等】



想定1【事故船舶:沖合いでの漂泊状態を想定】

平成28年6月13日、舞鶴東港を出港後、午前11時頃、舞鶴市沖合いの冠島南方付近海域において、旅客船A号(総トン数17,000トン)の居住区画で火災が発生。

乗員による初期消火に成功するも、初期消火活動時に炎により熱傷を負ったものや、同区画から発生した煙を吸うなどして容態悪化を訴える乗員乗客が多数発生し、同船舶は漂泊状態。

※フェリー岸壁に着岸状態のまま、沖合いの想定で訓練を実施

ステージ2【情報伝達、現地対策本部設置】

事故想定船舶

118番
通報

巡視船艇・航空機
潜水士・機動救難士

発動命令

第八管区海上保安本部

情報伝達

発動命令

舞鶴市、消防本部
舞鶴警察署

出動要請

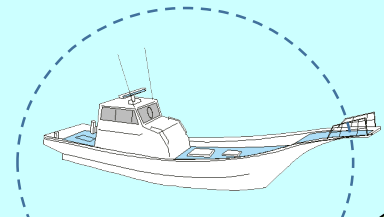
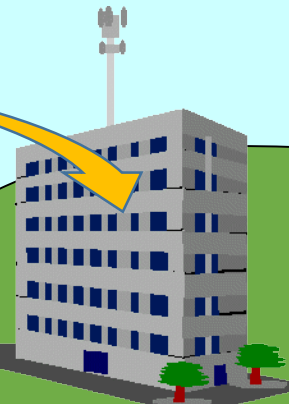
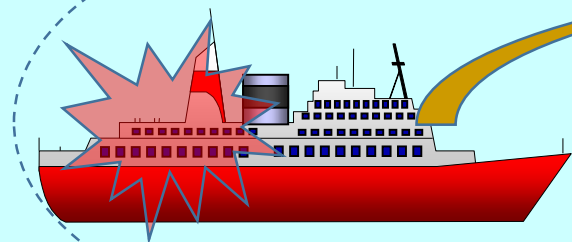
舞鶴保安部

出動要請

京都府水難救済会

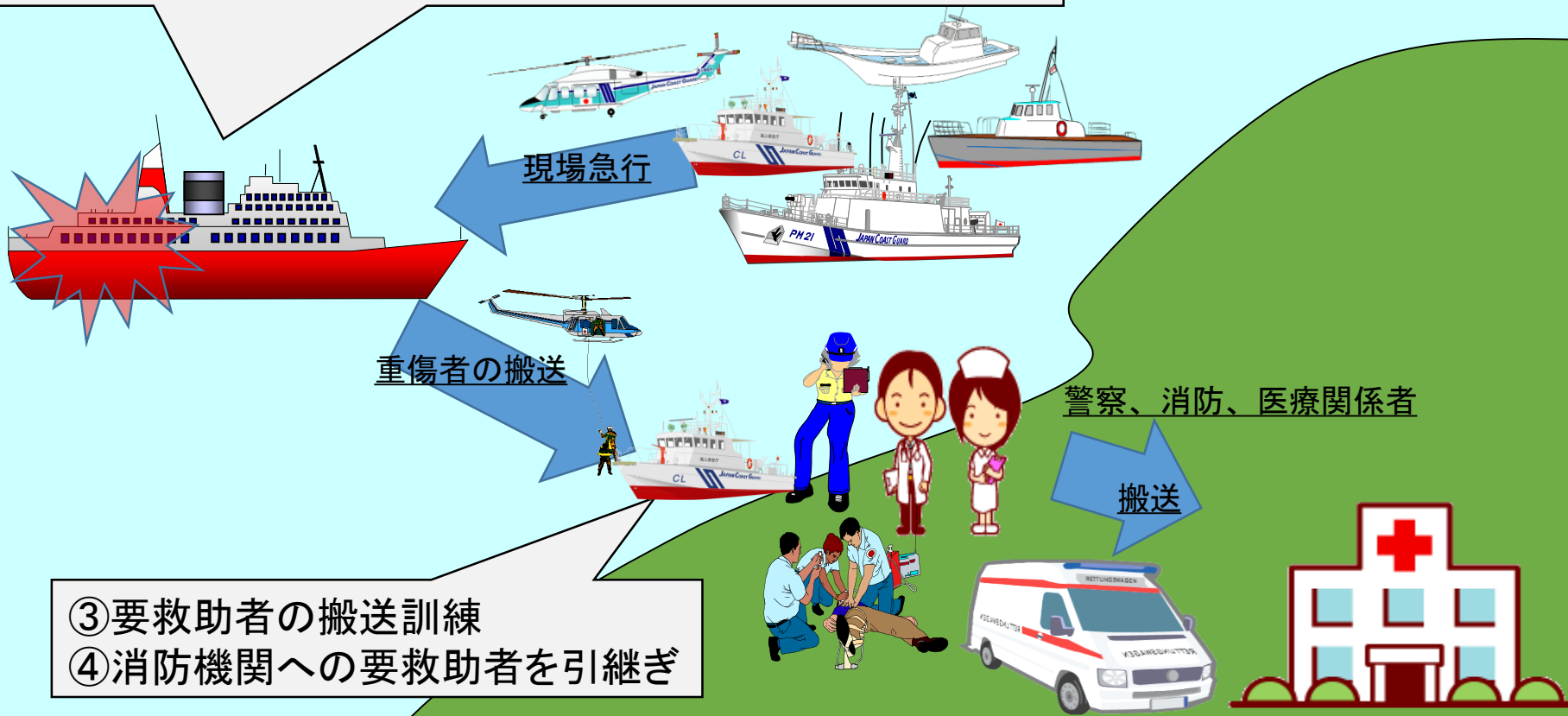
医療機関

- ①関係機関の必要な情報伝達
- ②現地対策本部、救護所の設置運営訓練

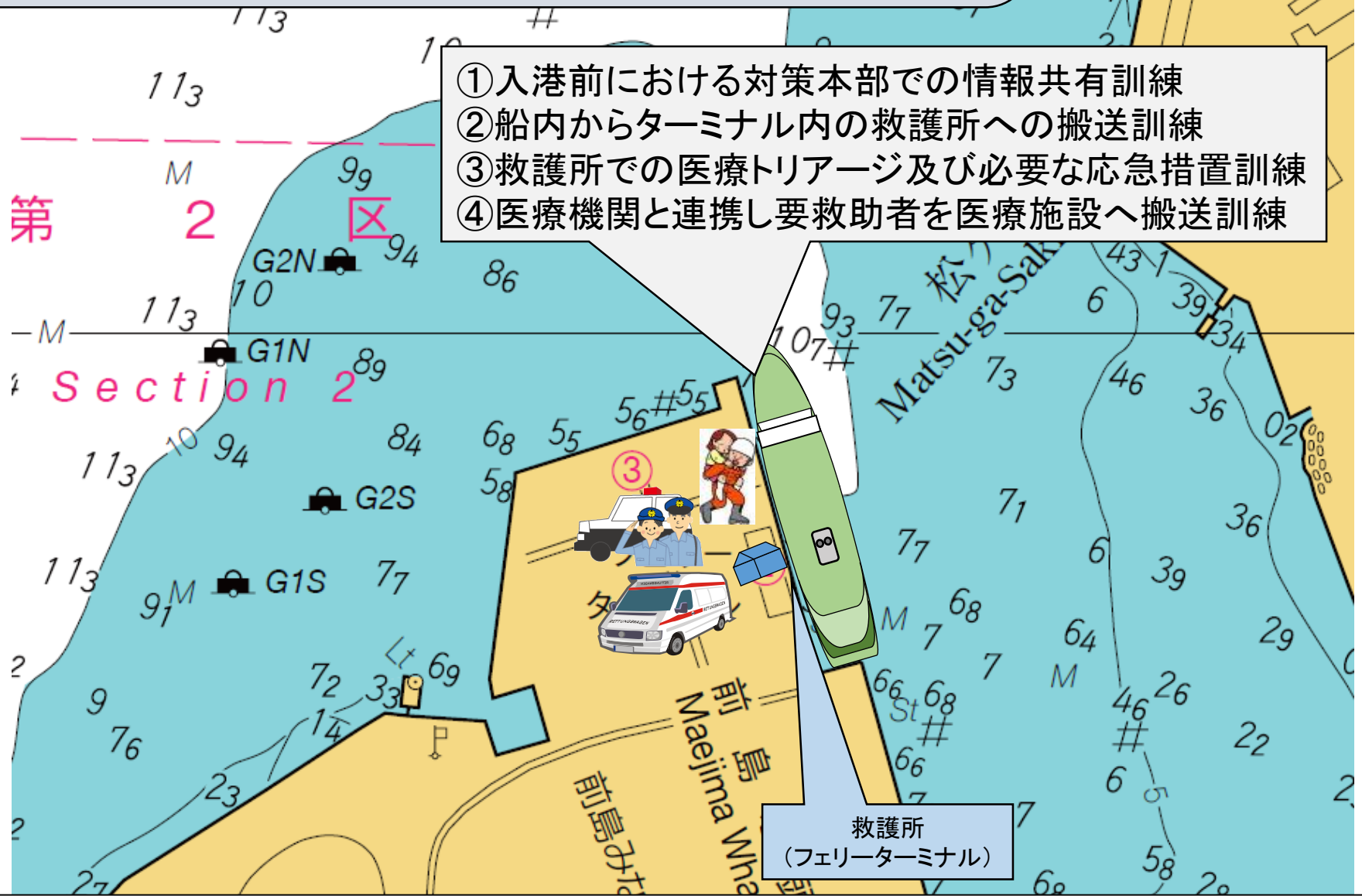


ステージ3【沖合対応：現場統制、搬送トリアージ、要救助者搬送】

- ①現場統制、搬送トリアージ、要救助者搬送、乗客状態管理
- ②対策本部に現場の状況を報告



ステージ4【着岸対応：要救助者搬出、応急処置、救急搬送】



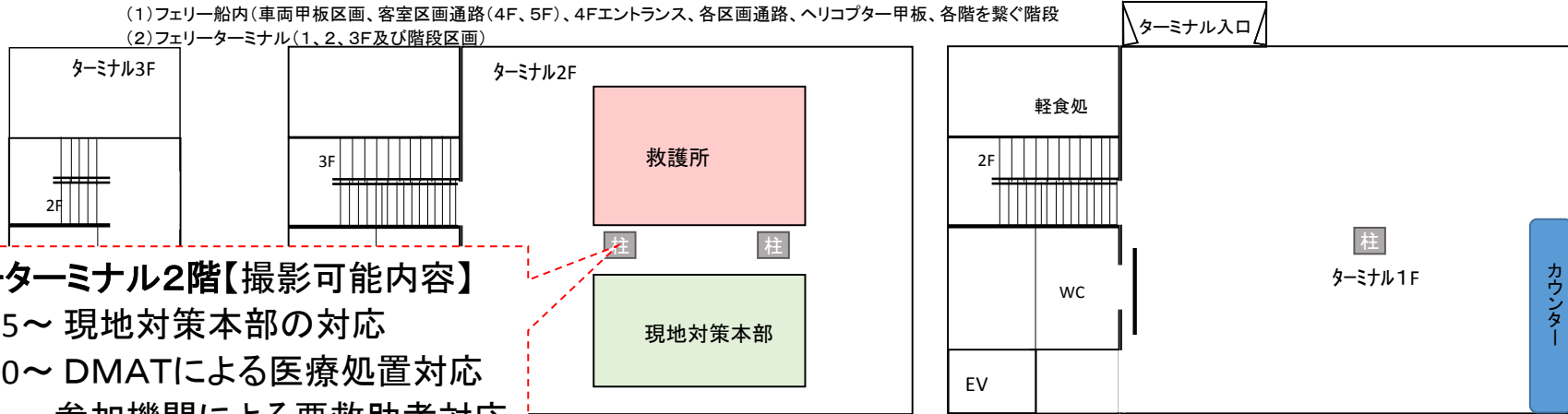
想定2【事故船舶：入港着岸の状態を想定】

旅客船A号は安全が確認されたため航走を再開し、舞鶴東港前島ふ頭フェリー岸壁に着岸した。船内には、煙を吸うなどして容態悪化を訴える乗員乗客が多数発生。

別添「訓練実施場所図」

訓練使用場所

- (1) フェリー船内(車両甲板区画、客室区画通路(4F、5F)、4Fエントランス、各区画通路、ヘリコプター甲板、各階を繋ぐ階段)
- (2) フェリーターミナル(1、2、3F及び階段区画)

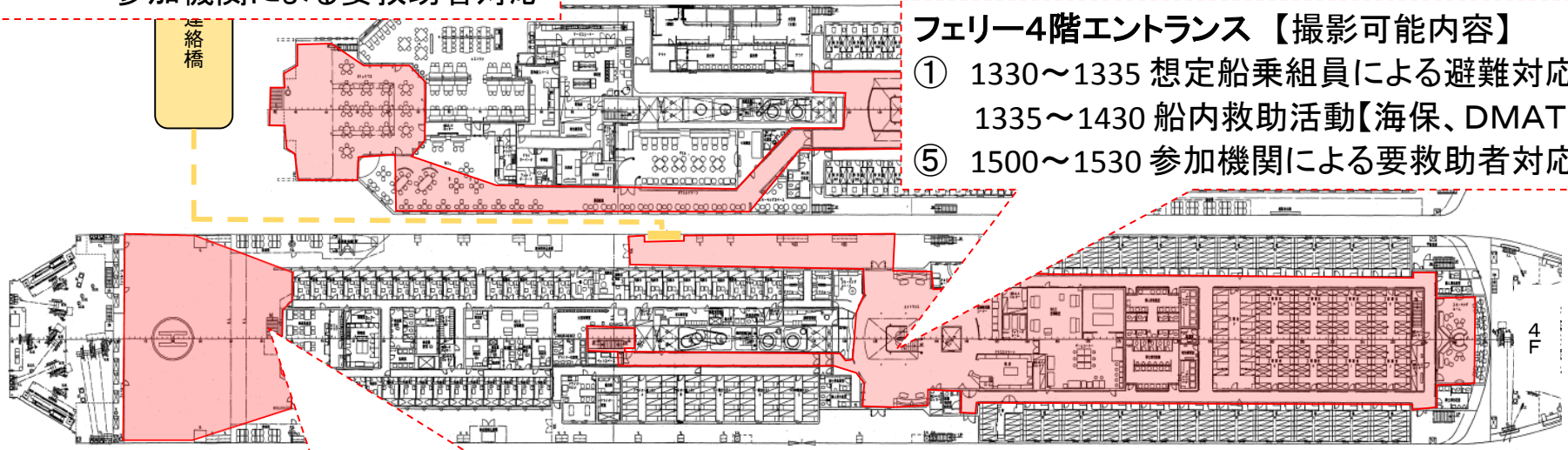


フェリーターミナル2階【撮影可能内容】

- ④ 1455～ 現地対策本部の対応
- ⑥ 1500～ DMATによる医療処置対応
参加機関による要救助者対応

フェリー4階エントランス【撮影可能内容】

- ① 1330～1335 想定船乗組員による避難対応
- 1335～1430 船内救助活動【海保、DMAT】
- ⑤ 1500～1530 参加機関による要救助者対応

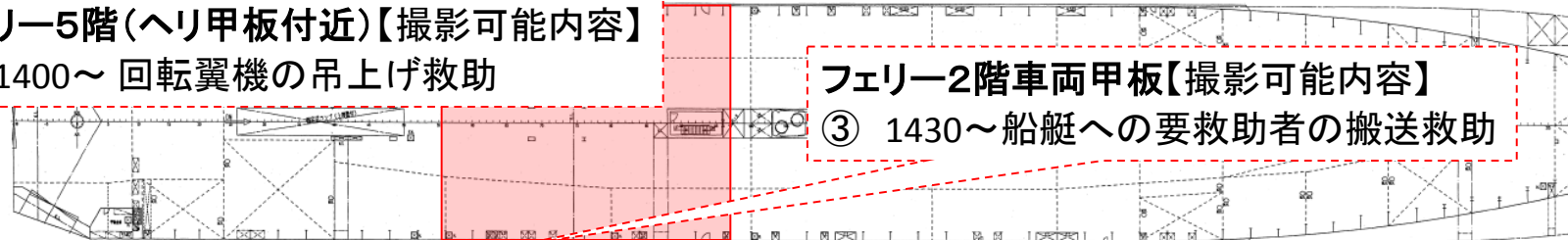


フェリー5階(ヘリ甲板付近)【撮影可能内容】

- ② 1400～ 回転翼機の吊上げ救助

フェリー2階車両甲板【撮影可能内容】

- ③ 1430～ 船艇への要救助者の搬送救助



車両甲板

平成 28 年 5 月 25 日
八 本 部 警 救 部 救 難 課

H28年度 旅客船事故対応合同訓練 取材スケジュール

	時刻	場所	訓練内容		移動スケジュール
①	13:30	想定船4階エントランス	ステージ1	想定船乗組員による避難対応	想定船4F → 5F
	13:35			船内救助活動【潜水土】	
②	14:00	想定船ヘリ甲板付近 (5階オープンデッキ)	ステージ3	ヘリコプターによる吊上げ救助	想定船5F → 2F
③	14:30	想定船2階車両甲板		巡視船艇、警察艇、水救会所属船への搬送・救助	想定船2F → ターミナル2F
④	14:55	フェリーターミナル2階		現地対策本部会議	ターミナル2F → 想定船4F
⑤	15:00	想定船4階エントランス		関係機関【海保、DMAT、消防】船内へ進入	想定船4F → ターミナル2F
⑥	15:10	フェリーターミナル2階	ステージ4	関係機関連携した要救助者搬送 要救助者を救護所へ搬入 救急車出発	